



統計からみた茨城県の高齢者

近年、人口構造の高齢化が急速に進展しており、高齢化の進展が経済社会のさまざまな面に大きな影響を及ぼすことから、重要な政策課題となっています。

現在、国において来年度の予算編成に向けた取り組みが本格的に開拓され、年金や福祉、保険などの各分野で、高齢社会に今後どのように対応していくのかの検討が行われています。

将来を考える場合、現状を正確に捉えておくことが欠かせません。

先月9月15日の敬老の日にちなんで、茨城県の高齢者に関する統計をとりまとめました。

なお、65歳以上のいわゆる老年人口を「高齢者」といたしました。

高齢者は県総人口の17.6%（5.7人に1人）、52万7,673人

茨城県常住人口調査の結果から、平成14年9月15日現在の県内の高齢者の数は527,673人と推計しました。前年同時期の推計に比べ、19,461人増加、県総人口に対する高齢者人口の割合も17.0%から0.6ポイント上昇し17.6%となり、人口、割合ともに過去最高となっています。

高齢者人口を男女別にみると、男性が225,442人（男性の総人口の15.1%）、女性が302,231人（女性の総人口の20.1%）で、女性が男性より76,789人多くなっており、性比注）は74.6となっています。

なお、女性の高齢者人口の割合は初めて20%を上回りました。

注）性比…女100人に対する男の数

表1 茨城県の高齢者人口（平成14年9月15日現在）

	総人口	高齢者人口 (65歳以上)	割合
男女計	2,992,620人	527,673人	17.6%
男	1,489,772人	225,442人	15.1%
女	1,502,848人	302,231人	20.1%

注）茨城県常住人口調査結果より推計

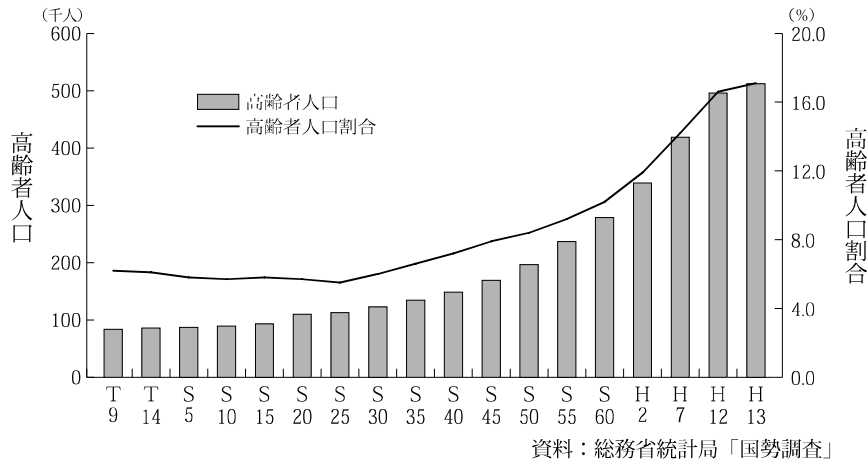
高齢者の数、割合ともに増加傾向続く

高齢者人口は昭和57年4月に250,247人と25万人を超え、9年後の平成3年7月には351,386人と35万人を超えました。また6年後の平成9年10月には450,666人と45万人を超え、さらに4年後の平成13年4月には505,419人と50万人を超えています。

本県の高齢者の数は確実に増加しており、県総人口に占める高齢者人口の割合の推移をみると、第1回国勢調査が行われた大正9年以降、昭和30年ごろまでは6%程度で推移していましたが、その後は

年を追って上昇し、昭和60年に県総人口の10%を超えて総人口の10人に1人を占めるようになり、平成9年には15%を超えました。

図1 茨城県の高齢者人口の推移（各年10月1日現在）



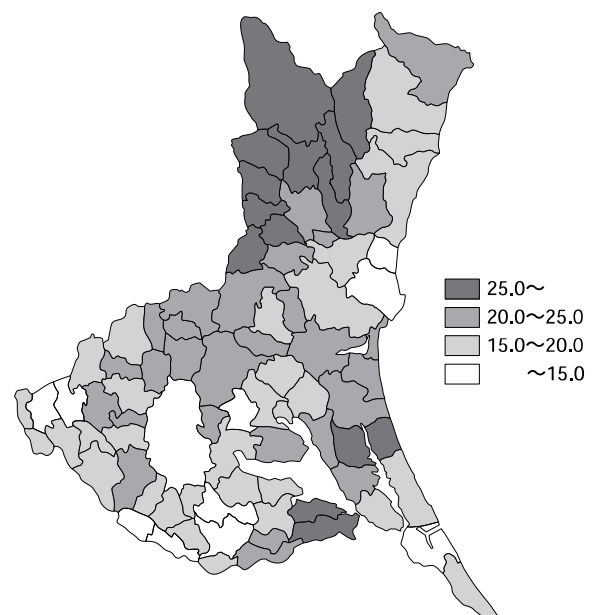
全国の中では高齢者の割合が低い茨城県

総務省統計局の「推計人口」における平成13年10月1日現在の本県の総人口に占める高齢者人口の割合は17.1%です。これは低い方から9番目で、全国第39位となっています。全国平均は18.0%ですので、本県は0.9ポイント下回り、高齢者の割合が低いことがわかります。

県内では高齢者の割合の高い県北地域

平成14年9月15日現在の地域別の高齢者人口の割合は、県北地域19.2%、県央地域18.7%、鹿行地域17.7%、県南地域15.7%、県西地域18.2%となっており、県南地域のみが県平均を下回っています。

図2 高齢者人口割合（平成14年9月15日現在）



注) 茨城県常住人口調査結果より推計